Ｆ０４－０２

研　究　報　告　第４０５号

平成２４年度

全国学力・学習状況調査分析結果報告書

平成２５年３月

千葉県総合教育センター

序

平成２４年度の全国学力・学習状況調査は，４月１７日に実施された。平成２３年度は，東日本大震災の影響で実施が見送られたため，今回の調査は２年ぶりの実施であった。

本調査は，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証しその改善を図るとともに，学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で，平成１９年度から３年間は悉皆調査で，平成２２年度からは抽出調査で，小学校第６学年及び中学校第３学年の児童生徒を対象に実施されてきた。教科に関する調査では，国語，算数・数学の他に今年度新たに理科を加えた。また，学習意欲や学習環境等に関する児童生徒質問紙調査と学校における指導方法の状況等に関する学校質問紙調査も行っている。

今年度の千葉県の調査結果については，その概況が平成２４年８月に千葉県教育委員会（教育振興部指導課）から発表された。「教科に関する調査について，本県の公立学校の結果は，正答数及び平均正答率の９５％信頼区間について概ね全国平均と同程度である。また，児童生徒の正答数の分布も全国の状況とほぼ同程度である。」とされており，これらはここ数年の結果と同様の傾向であった。しかし，詳細に見ると，小学校に比べ中学校の結果に，また「活用」に比べ「知識」に関する問題の結果に課題が見られた。質問紙調査からは，読書が好きな児童生徒の割合や，早寝早起きの習慣が身に付いている児童生徒の割合が今年度も全国と比べて高い傾向にある反面，宿題を出している学校の割合や家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図っている学校の割合が全国と比べて低いなどの課題も明らかになった。

県教育委員会では，これまで本調査から千葉県の現状と課題を明確にし，各学校での指導改善を目指す視点に立った「全国学力・学習状況調査分析結果報告書」を作成してきた。今年度も同様の趣旨で調査結果について詳細な分析を行い，その結果を本報告書にまとめた。調査に参加した市町村の教育委員会及び学校においては，児童生徒の学力や学習状況について把握し，さらなる分析を行うなどして学力向上に役立てていただきたい。また，今回参加しなかった学校においても，全国学力・学習状況調査の調査問題を授業や校内研修で活用するとともに，本報告書に掲載した県教育委員会・国立教育政策研究所作成の授業改善のための資料等も参考としていただきたい。

平成２５年度全国学力・学習状況調査はきめ細かい調査として，従来実施していた調査を対象学年の全児童生徒で実施することとし，新たに追加調査として，経年変化分析調査，保護者に対する調査，教育委員会に対する調査も実施する予定となっている。

本報告書が県内各小中学校において広く活用され，日々の指導の充実に役立てられることを期待している。

平成２５年３月

千葉県総合教育センター所長　山田　龍雄

目　　次

序

1　調査の実施状況　1

1.1　調査実施日
1.2　調査対象
1.3　千葉県の状況
1.4　調査内容

2　結果の概要　1

2.1　教科区分別の結果　……　1
2.2　教科に関する調査　……　2
2.2.1　国語
2.2.2　算数・数学
2.2.3　理科
2.2.4　小学校から中学校へかけての結果の変化
2.3　質問紙調査　……　5
2.3.1　児童生徒質問紙
2.3.2　学校質問紙

3　結果の詳細　10

3.1　教科に関する調査
3.1.1　国語　……　10
3.1.1.1　小学校
3.1.1.2　中学校
3.1.2　算数・数学　……　26
3.1.2.1　小学校
3.1.2.2　中学校
3.1.3　理科　……　42
3.1.3.1　小学校
3.1.3.2　中学校
3.2　質問紙調査
3.2.1　児童生徒質問紙　……　58
3.2.2　学校質問紙　……　67

4　まとめ（今後の対応）　76

4.1　今回の調査結果に見られる課題と対応策
4.2　県教育委員会の取組
4.3　文部科学省の取組

5　資料　81

1　調査の実施状況

1.1　調査実施日　　平成２４年４月１７日（火）

1.2　調査対象　　全国の小学校第６学年・中学校第３学年の児童生徒

1.3　千葉県の状況

「抽出対象校」　公立小学校 155 校（18.4%）・公立中学校 137 校（34.9%）
合計 292 校（23.7%）（特別支援学校を含む）

「希望利用校」　公立小学校 359 校（42.6%）・公立中学校 131 校（33.4%）
合計 490 校（39.7%）（特別支援学校を含む）

※本報告書の分析は，「抽出対象校」についてのものである。

1.4　調査内容

①教科に関する調査（本年度初めて理科に関する調査を実施）

○国語Ａ，算数Ａ・数学Ａ　：　主として「知識」に関する問題

○国語Ｂ，算数Ｂ・数学Ｂ　：　主として「活用」に関する問題

○理科　：　主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う形の問題

主として「知識」に関する問題（「Ａ」問題）は，①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，②実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを調査するものである。

また，主として「活用」に関する問題（「Ｂ」問題）は，①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかる内容を調査するものである。

②生活環境や学習環境等に関する質問紙調査

○児童生徒に対する調査　　○学校に対する調査

2　結果の概要

2.1　教科区分別の結果　　＊千葉県・全国ともに，公立学校の※平均正答率の９５%信頼区間(%)である。

小学校	千葉県	全国
国語Ａ	80.9－82.3	81.4－81.7
国語Ｂ	56.4－58.3	55.4－55.8
算数Ａ	72.6－74.5	73.1－73.5
算数Ｂ	59.3－61.3	58.7－59.1
理　科	61.8－63.3	60.8－61.1

中学校	千葉県	全国
国語Ａ	74.3－75.5	75.0－75.2
国語Ｂ	62.9－64.2	63.2－63.4
数学Ａ	60.5－62.2	62.0－62.3
数学Ｂ	47.7－49.9	49.2－49.5
理　科	49.4－50.9	50.9－51.1

※平均正答率の９５%信頼区間とは，抽出校の結果をもとに９５%の確率で，全員を対象とした調査の場合の平均正答率が含まれる範囲である。

本県の調査結果は，平均正答率の９５%信頼区間について概ね全国平均と同程度である。また，児童生徒の正答数及び正答数の分布も全国の状況とほぼ同程度である。なお，正答数及び正答数の分布に関しては，各教科の「全体的な結果」において詳述する。

2.2　教科に関する調査

教科の各設問について，千葉県の平均正答率及び無解答率を全国平均と比較し，児童生徒質問紙調査の回答状況を踏まえて分析した結果を以下に示す。

2.2.1　国語

【小学校】

- 基礎的・基本的な知識を正確に身に付けることにやや課題がある。
- 話したり聞いたり，書いたり，読んだりする目的や意図に応じ，複数の情報を関係付けて捉えることは良好であるが，条件に合わせながら自分の考えをまとめて記述したり発表したりすることに課題がある。

【中学校】

- 具体的な言語活動の中で，基礎的・基本的な知識・技能を適切に使うことに課題がある。
- 読書を好む者が多く，長い文章を読んだり書いたりすることは良好である。
- 目的に応じて必要な情報を読み取ったり聞き取ったりして，そのことに関連した自分の経験を基に考えを書くことに課題がある。

【小・中学校の比較】

- 基礎的・基本的な知識・技能について，小学校でやや弱い面があったが，中学校ではその傾向がさらに強くなっている。
- 「書くこと」について，小学校では，資料から読み取った事実を基にして自分の考えを書くことに課題が見られたが，中学校ではさらに，経験を基にして自分の考えを書くことに課題が見られるようになっている。

2.2.2　算数・数学

【小学校】

- 知識・技能などを活用し，言葉や式を使って表現することは概ね良好である。
- 「数と計算」「図形」などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることに課題がある。
- 「算数の勉強が好き」と回答している割合が全国平均より低く，算数に対する関心意欲について課題が見られる。

【中学校】

- 数学的に表現したり，数学的に表現された事柄を読み取ったりすることに課題がある。
- 図形の性質などの内容を，関数の視点から動的な関係として捉えることに課題がある。
- 言葉や式を使って説明する問題に対して，途中であきらめ，全く取り組もうとしない生徒の割合が全国より多い傾向がある。

【小・中学校の比較】

- 言葉や式を使って表現することは，小学校では良好であったが，中学校では記述式の問題における無解答率が高く，取り組む意欲も含め課題が見られる。

2.2.3　理科

【小学校】

- 全体として良好である。
- 観察・実験の結果などを整理・分析し，解釈・考察して説明したり，事前の予想・仮説や実験方法の検証・改善を行い，考え方や適切な計画を組み立て直したりすることにやや課題がある。

【中学校】

- 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることに課題がある。
- 観察・実験の結果などを整理・分析し，科学的な考え方に基づいて解釈・考察して説明したり，事前の予想・仮説や実験方法の検証・改善を行ったりすることに課題がある。
- 生物的領域に課題が見られる。

【小・中学校の比較】

- 小学校では全体的に全国平均正答率を上回ったのに対し，中学校では全国平均正答率を下回る領域が多かった。小学校で大きく上回った「エネルギー」の領域や「記述式」の問題についても，中学校では全国平均を下回った。

※教科に関する調査結果に関しての具体的なデータは，81ページ以降を参照されたい。また，「**3　結果の詳細**　3.1　教科に関する調査」において，各区分に対して全国平均（公立）を100とした指数で表しているが，その値が100±1の範囲内であれば全国と同程度として傾向の概要をまとめた。

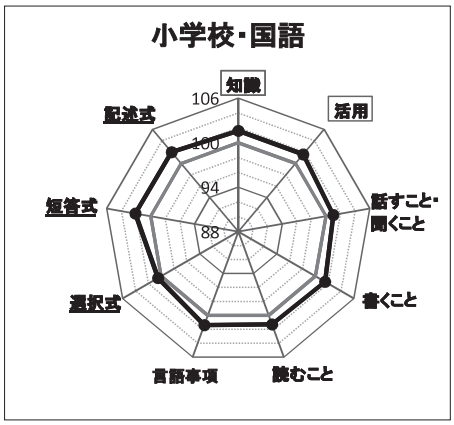
2.2.4　小学校から中学校へかけての結果の変化

＜平成 21 年度の小学校第６学年と平成 24 年度の中学校第３学年との比較＞

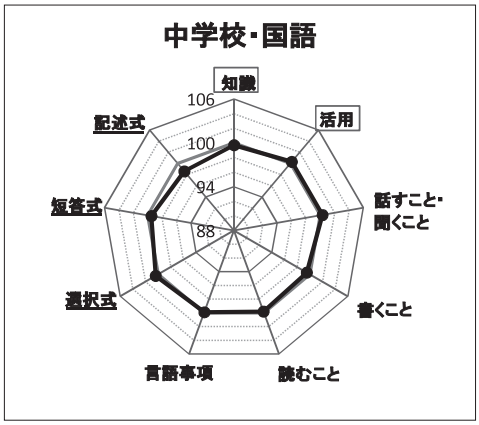
今回実施した全国学力・学習状況調査の中学校の結果を平成 21 年度に実施した全国学力・学習状況調査の小学校の結果と比較して，当時の児童が中学校第３学年になったとき，平均正答率にどのような変化が見られたかをレーダーチャートで示した。レーダーチャートは全国平均（公立）を 100 として千葉県の児童生徒の結果を相対的に表したものである。なお，平成 21 年度の調査は悉皆調査で，平成 24 年度は抽出調査である。

【国語】

平成 21 年度 小学校第６学年



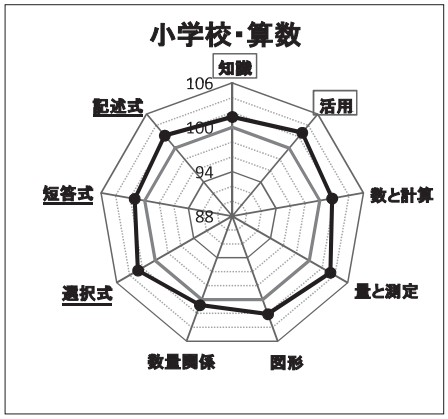
平成 24 年度 中学校第３学年



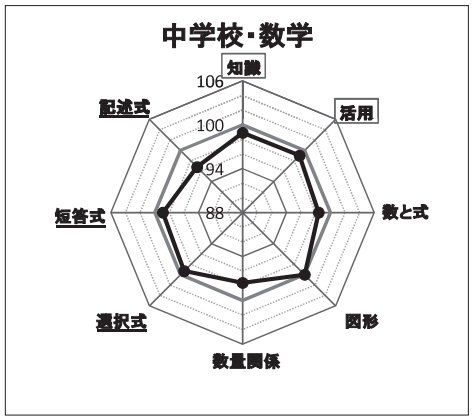
中学校になると，千葉県の円が全体的に小さくなり，各項目とも全国平均と同程度となっている。特に「記述式」が低下したことが分かる。

【算数・数学】

平成 21 年度 小学校第６学年



平成 24 年度 中学校第３学年



中学校になると，千葉県の円が全体的に小さくなり，「図形」以外は全国平均を下回っている。特に「記述式」が大幅に低下したことが分かる。

2.3　質問紙調査

2.3.1　児童生徒質問紙

学習状況に関すること

全国と比較して優れている点
○ 読書が好きだと回答している児童生徒の割合や，普段（月～金曜日）家や図書館で１日当たり30分以上読書をする生徒の割合は，全国と比べて高い。

課題としてあげられる点
○ 学校の授業以外の学習時間は全国並みだが，家で学校の宿題をしている児童生徒の割合は，全国と比べて低い。

【その他の特徴】

＜学習に対する関心・意欲・態度（新規項目の理科を中心に分析）＞

○ 理科の勉強は好きと回答している児童の割合(85%)は，国語(66%)・算数(約63%)と比べて高い。同様に，生徒の割合(64%)は，国語(61%)・数学(54%)と比べて高い。

○ 理科の勉強は大切だと思う児童の割合(87%)は，国語(93%)・算数(92%) と比べてやや低い。同様に，生徒の割合(67%)は，国語(90%)・数学(81%)と比べて低い。

○ 理科の授業の内容はよく分かると回答している児童の割合 (88%) は，国語(83%)・算数(77%)と比べてやや高い。同様に，生徒の割合(63%)は，数学(63%)は同程度だが，国語(71%)と比べてやや低い。

○ 理科の授業で学習したことは，将来，役に立つと回答している児童の割合(74%)は，国語(88%)・算数(89%)と比べて低い。同様に，生徒の割合(51%)は，国語(84%)・数学(70%)と比べて低い。

○ 将来，理科や科学技術に関係する職業に就きたいと回答している児童の割合は約 30%，生徒の割合は約 24%である。

＜学習時間等＞

○ 児童生徒の１日当たりの学習時間は，平成19年度の調査からあまり大きな変化は見られないが，１時間以上学習する児童生徒の割合は，全国と比べて低い。

○ 家で学校の宿題をする児童の割合は約96%と大きな変化は見られないが，生徒の割合は約80%と年々増加している傾向がうかがえるが，全国と比べるとその割合は低い。

○ 昼休みや放課後，学校が休みの日に，本を読んだり，借りたりするために，学校図書館・室や地域の図書館へ月に１回以上行く児童生徒の割合は，全国と比べてやや低い。

○ 読書は好きと回答している児童生徒の割合や，普段（月～金曜日）家や図書館で１日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合は，平成22年度と比べて大きな変化は見られないが，生徒の割合は全国と比べて高くなっている。

生活習慣に関すること

全国と比較して優れている点
○ 早寝・早起きの児童生徒の割合は，全国と比べて高い。さらにその傾向は年々強まっている。

【その他の特徴】

＜基本的生活習慣＞

○ 毎日，同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合は全国と同程度であるが，全国的にそのようにしている生徒の割合は増加傾向にある。
○ 毎日，同じくらいの時刻に起きている児童の割合に，若干の増加傾向がうかがえる。
○ 普段（月～金曜日）午前７時より前に起きる児童の割合に大きな変化は見られないが，午前６時30分より前に起きる生徒の割合に増加傾向がうかがえる。
○ 携帯電話を持っている児童生徒の割合は全国と比べて高い。
○ 携帯電話を持っている児童生徒のうち，携帯電話の使い方について，家の人と約束したことを守っている児童生徒の割合を計算すると，全国と同程度である。
○ 普段（月～金曜日）１日当たり１時間以上インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしている児童の割合は20％，生徒の割合は40％をそれぞれ超え，全国と同程度である。また，その割合は全国と同様に増加傾向にある。

＜自尊意識＞

○ 自分にはよいところがあると思う，将来の夢や目標を持っていると回答している児童の割合は，平成22年度と比べて大きな変化は見られないが，生徒の割合は全国的にやや高くなっている。
○ 人の役に立つ人間になりたいと回答している児童生徒の割合に，若干の増加傾向がうかがえる。

＜他者意識＞

○ 人の気持ちが分かる人間になりたいと回答している児童生徒の割合は，平成22年度と比べてやや高い。
○ いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答している児童生徒の割合は，全国より低い。しかし，中学校においては，いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答している生徒の割合は，年々増加傾向にある。

＜家庭でのコミュニケーション＞

○ 家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒の割合に，増加傾向がうかがえる。
○ 普段（月～金曜日）家の人と一緒に夕食を食べている児童生徒の割合，家の手伝いをしている児童生徒の割合は，平成22年度と比べて大きな変化は見られない。

＜社会に対する興味・関心（新規項目を含む）＞

- 新聞やテレビのニュースなどに関心がある児童生徒の割合，今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は，平成22年度と比べて大きな変化は見られない。
- 学校や塾の先生や家の人以外の地域の大人と一緒に遊んだり，勉強を教えてもらったりすることがある児童の割合は約41%，生徒の割合は約23%，年上や年下の友達と一緒に遊んだり，勉強したりすることがある児童の割合は約72%，生徒の割合は約43%である。（新規項目）

※児童生徒質問紙調査に関しての具体的なデータは，94 ページ以降を参照されたい。

2.3.2　学校質問紙

学習態度に関すること

特　徴
○ 熱意を持って勉強していると回答した学校の割合は，小・中学校ともに高く，全国と同程度である。 ○ 授業中の私語が少なく，落ち着いていると回答した学校の割合は，小・中学校ともに高く，全国と同程度である。 ○ 礼儀正しいと回答した学校の割合は，小・中学校ともに高く，全国と同程度である。 ○ ほぼすべての小・中学校において，学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底している。

学力向上に向けた取組に関すること

特　徴
○ 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けた学校の割合は，実施の頻度に違いはあるが，小・中学校ともに高い。 ○ 学校図書館を活用した授業を計画的に行っている頻度は，小・中学校ともに高く，特に中学校は全国に比べて高い頻度で学校図書館を活用している。 ○ 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している頻度は，小・中学校ともに著しく低く，特に小学校では行っていない割合が全国と比べて高い。 ○ 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は日数の違いはあるが，小学校で４割程度の学校が，中学校で８割程度の学校が実施しており，実施頻度を含めて全国と同程度である。

習熟度別少人数指導に関すること

特　徴
○ 前年度に，算数・数学の授業において，習熟の遅いグループに少人数指導を行い，習得できるようにしたと回答している学校の割合は，小・中学校ともに約 40%程度であり，中学校は全国と同程度であるが，小学校は全国と比べて 9 ポイント程度低い。 ○ 前年度に，算数・数学の授業において，習熟の早いグループに発展的な内容について少人数指導を行ったと回答している学校の割合は，小学校は約 40%程度であり，中学校は約 30%程度であった。中学校は全国と同程度であるが，小学校は全国と比べて 9 ポイント程度低い。

家庭学習・家庭との連携に関すること

特　徴
○ ほとんどの小・中学校において，国語・算数(数学)・理科の指導として，「家庭学習の課題(宿題)を与える」という質問に対して，「よく行った」と回答した学校の割合は小・中学校ともに全国と比べて 10 ポイント程度低い。 ○ 家庭学習の課題(宿題)の与え方について，教職員で共通理解を図っている学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて低い。 ○ 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて低い。

調査結果の活用に関すること

特　徴
○ 前年度の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を利用して，具体的な教育指導の改善等を行った学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて低い。 ○ 前年度の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を，学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて低い。 ○ 前年度の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果について，保護者や地域の人たちに公表や説明をした学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて著しく低い。 ○ 前年度の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自調査や学校評価の結果等を踏まえた取組を保護者に働きかけた学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて低い。 ※なお，前年度は東日本大震災の影響等を考慮し，全国学力・学習状況調査の実施は見送られたが，全国学力・学習状況調査の問題等は配付・公表されている。

教員研修に関すること

特　徴
○ 学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて高い。 ○ 模擬授業や事例研究など，実践的な研修を行っている学校の割合は，小・中学校ともに全国と比べて低い。 ○ 教員が，他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている学校の割合は，小学校は全国と比べて低いが，中学校は全国と同程度である。 ○ 前年度，年間 15 回以上授業研究を伴う校内研修を実施した学校の割合は，小学校で約 15%，中学校で約 5%であり，全国と比べてやや低い。また，年間 7 回以上実施した学校の割合は，小学校で約 51%，中学校で約 28%であり，小・中学校ともに全国と比べ著しく低い。授業研究を伴う校内研修は，学校によって実施する回数は異なるがほぼすべての小・中学校で実施しており，県内の小・中学校においては，割合として年間３～４回実施している学校が多い。

※学校質問紙調査についての問題・結果に関する具体的なデータは，国立教育政策研究所ホームページを参照されたい。

（検索方法）
教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」
→調査問題・解説資料等について「平成 24 年度　調査問題・正答例・解説資料について」
→「平成 24 年度全国学力・学習状況調査の調査問題について」
→【小学校】学校質問紙　【中学校】学校質問紙
（http://www.nier.go.jp/12chousa/12mondai.htm）

→「平成 24 年度全国学力・学習状況調査 報告書・集計結果」について
→「平成 24 年度全国学力・学習状況調査【 都道府県別 】集計結果」→「千葉県」
（http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/todoufuken_shuukeikekka/12_chiba.htm）